

非行少年への自立支援教育から日本の教育方針を見つめ直す

4 質の高い教育を
みんなに



(気仙沼高校・2年4組4番)

【1】目的

支援教育と普通教育を比較し、普通教育が取り入れてプラスになることを明らかにする。

【2】背景

- 地方の少子化による学校の統合
- ▶学力、家庭環境の多様な生徒が同じ学校に
- ▶勉強について行けていない児童、馴染めない生徒に目を向ける必要がある
- ▶学校教育における多様性の向上

【3】定義

自立支援教育

本研究では非行歴のある児童生徒の社会生活を支援し自立を促す教育と定義

普通教育

全国民共通の一般的な教育

* Wikipedia

【5】考察

支援教育の些細なことでも言葉で伝えること、一人一人をよく知ることを踏まえて一人一人に合った教育をすることが普通教育に必要。

▶教育方針を見つめることができる可能性がある

【6】展望

さわらび学園の活動を踏まえて新しい教育の工夫を検討、提案する

【参考文献】

- 文部科学省.<http://www.mext.go.jp>.閲覧日2022年1月25日.
- Wikipedia.<https://ja.wikipedia.org/>.閲覧日2022年1月25日.
- 聖隷こども園めぐみ.<http://www.seirei.or.jp>.閲覧日2022年1月25日.
- 兵庫教育大学.<http://www.hyogo-u.ac.jp>.閲覧日2022年1月25日
- ◆松島秀明.2013.非行少年にかかわる研究実践と臨床実践のインターフェース.発達心理学研究(24)-4:449-459.
- 宮城県さわらび学園学校要覧 ○宮城県気仙沼高校学校要覧
- (聞き取り調査)宮城県さわらび学園 指導班長 T先生

【4】調査結果

調査1 比較

*さわらび学園と気仙沼高校の学校要覧

さわらび学園

活動時間: 7:00~
21:30

- 少人数学習
- 自立支援計画
- 寮での集団生活

高等学校

活動時間: 8:30~
19:00

- 集団学習
- 探求学習
- 部活動

高等学校とさわらび学園の共通点

- ・児童(生徒)が抱えている悩み
- ▶対人関係が上手くいかない
- ▶自分に自信が持てない(他者との比較)

▶児童に対する配慮・工夫

*さわらび学園聞き取り調査

さわらび学園

- その児童をよく知る
(普段の日常生活から個性を読み取り職員内で共有)
- 失敗を直すよりも良いところをしっかりと評価してあげる
(失敗しても次に繋げることが大事)
- 自分で考えること、わからなければ相談することを意した支援(規制より自制)
- 家庭状況や本人の意向から自立支援計画を作成

▶行っている自立支援教育の具体例

*さわらび学園
聞き取り調査

- ▶問題の予防と解決方法=人間関係を支援する
- ▶知識の習得=正しい法律や決まりを学べる
- ▶児童同士の気づき合い=切磋琢磨し合える

(さわらび学園まとめ)

- 児童をよく観察することで一人一人に合った教育を提案したりよく褒めることで児童自身に自信を持たせることが可能
- ▶集団を一度に見なければいけない学校では一人一人を観察できる時間を取ることが難しい(▶観察時間の提案)
- 生徒同士で気づき合う時間を作り自立心を高めることが可能
- ▶普通の授業だけでなく生徒が気づき、学べ考える時間を作る
ことが必要(▶新しい授業スタイルの提案)

調査2 文献調査

▶非行に走る理由・原因

- ①非行的な友人の存在(誘われて断れない)
- ②親の養育態度(親に話を聞いてもらえない)
- ③乏しい学業成績(勉強についていけない)

*松嶋(2013)

自立支援計画

一人一人が以前の生活の振り返りやトラブルにならないための対策を考え作成

▶児童・生徒の実態に合った支援が実現できるようにする